

## 学園創立

### 二十周年記念事業の動き

会報十九号で御報告申し上げた通り、三十周年記念事業として、

- 一、民芸館の設立、同窓会としては民具の収集活動
- 二、同窓会館の建設、執行部案をもとに検討し、支部長会議において決定する。

の二点が大会で決定され、執行部としてこの事業をどのように運営していくかを検討してまいりました。間もなく昭和四十九・五十年年度の年度末が訪れようとしている現在もお、具体的な提案が出来ず、支部長会議も開き得なかった理由は、

- 一、事業の性格上学園と無関係で事を運ぶことは困難。
- 二、学園は、三十周年記念事業について態度決定をしない。
- 三、同窓会館については、建設の可能性がある案を提案する必要がある。

の三点となっております。

この状態を打開するために、先ず、同窓会館については、会独自の力で建設することは困難であると認識し、学園の教育施設を国庫補助と記念募金をもって建設し、その施設を同窓会館としても一部利用する、の方向でこの問題を考え、早急に準備と行動の開始を常任委員会で決定し、これを参考意見として、学園としても、三十周年記念事業についての態度を表明していただくよう申し入れたところ、六月三十日付をもって回答がありました。学園からの回答の主要な点は次の通りです。

記念事業及び記念式祝賀会の実施について  
同窓会よりの申し入れの趣旨を尊重し、農村文化創造館の建設について、国庫助成を要請し、(五二年度)これ

が認められた場合、これを三十周年記念事業として考えたい。したがって記念式及び祝賀会等はその際行なう予定である。

これに備え、貴会に対し諸般の準備を期待したい。

※なお、農村文化創造館の建設計画のあらましは次の通りです。

- 一、規模  
鉄筋コンクリート二階建  
建坪 一、三二八平方米
- 二、内容  
一階、生活文化実習室・陶芸実習室  
家庭機械研修室・セミナー  
ーム・教官室等
- 二階、生活総合実習室・諸会議室・個別室・宿泊室・セミナー  
ーム・教官室・ロビー等
- 三、建設費(設備費含)  
二〇三、九二〇、〇〇〇円

早速、常任委員会を開催して、今後の推進方策について協議した結果、次の通りの決定をみました。

#### 一、民具の収集について

学園側の民芸館設立については、学園諸施設整備年次計画の遅れもあり、現実のものとなっていない。民具収集の性格を考えると、いろいろな事情があっても、一日も早く収集活動を実施に移す必要がある。以上のことから

① 会報をもって全会員に協力を呼び

かける。

② 収集経費については、輸送費も含め、奇贈をお願いする。

③ 収集期間は会報発行日より開始し永続的に収集する。

#### 二、同窓会館の設立について

同窓会活動にも利用できる教育施設について、学園としての国庫助成の要請が昭和五十二年度となっていること。

建設費が多額であること等を考慮すると、具体化するまでには紆余曲折が予想されるが、

① 同窓会館として利用し得る施設の建設を目的に、記念募金活動を実施する方向で検討する。

② 十一月三日、大会に前して、支部長会議を開催、具体案をはかり、大会の承認を得て、募金活動を実施する。

三十周年記念事業に対する動きは以上の通りです。

民具の収集については、失われゆく文化遺産を保存しよう、教育に役立てよう、鯉淵学園の特徴を生かそうであり、同窓会館については、安心して帰郷していただくための施設と雰囲気をつくらう、が三十周年記念事業の趣旨でありますので、会員各位の御理解と御協力をお願いいたします。

同窓会事務局

## 三十周年記念事業 民具等の収集実施について

大会の決定に基づき、民芸館の設立に伴う民具の収集について検討を重ねてまいりました。

学園と同窓会は、大綱については一致している民芸館の設立も、民芸館として予定されている建物が、現在、事務所や研究室として使用中であること、本館建設が決定した後には民芸館としての利用が考えられること等、具体的な検討ができていない現状にあります。

しかしながら、この事業が大会の決定であることを重視し、また、民具収集の性格を考慮すると、一刻も早く民具収集の実施に踏み切る必要があると判断しました。本会の財政や事務局の状況から考えると不備のままの発足ですが、左記の通り、民具収集実施要項を定めましたので、皆さんの御理解と御協力を切望する次第です。

昭和五十年七月二十二日

福岡学園同窓会

会長 和田 文雄

会員各位

記

一、民具収集の期間

昭和五十年八月一日より開始

二、民具収集経費

寄贈を原則とし、輸送費についても

元払いをお願いします。

三、民具の収集方法

① 収集は間接収集とする。

② 収集民具の種類は指定は行わないが、生産に用いられたものや、衣食住に用いられたもの等で地域的特色のあるものが考えられる。

③ 民具そのものの寄贈が困難な場合、写真でもよい。

④ 民具の収集の記録

民具の収集寄贈にあたっては、次の記録を必ず添付する。

イ、民具の名称(土地名・別名)

ロ、採集地(採集当時の状況を含む)

ハ、製作・製作地(自製品・販売品、製作時・材料)

ニ、用途(使用目的・使用方法・使用時期)

ホ、分布(使用地域)

ヘ、寄贈者名(採集者も含む)

四、収集民具の保存・展示

① 収集民具は民芸館が設立されるまでの間、学園既存施設に保管する。

② 民具収集台帳を作成して、寄贈者名・収集の記録を納め保存する。

③ 収集の記録は会報をもって公表する。

## 県会議員誕生(湯沢隆夫氏一期)

真の農民代表者を県会におくる

栃木県支部

一九七五年地方統一選挙の、県会議員選挙に、真の農民代表として、立候補した、湯沢隆夫氏(一期)は、現職議員を、おさえ見事当選の栄に輝きました。

日本の公害闘争の原点、銅山の町、足尾と栗野町・西方村の二町一村を選挙区とした、上野原一区は定数一名に対し二名が立候補し一騎打ちの厳しい選挙戦を激しく展開したが、最後まで苦しい選挙戦でありました。今度こそ、真の農民代表を県会におくりたいとする地元民の

強力な支持と、湯沢氏の人柄と地元民のために勤める県議員にならねばとの情熱が、一つのエネルギーとなって、初陣戦を勝利でかざる事ができました。これも全国の同窓生ならびに、農業改良普及事業関係者の皆様から寄せられました激励とご支援の賜ものと感謝いたします。力強いご支援、誠に有難うございました。会報紙上をおかりして、お礼申しあげると共にご報告いたします。

(事務局 藤原要一記)

## 岡本秀治氏(一八期)

栃木県農業士に認定される

栃木県では、自から近代的農業を実践し、全農家のシンボルとして、農業後継者の育成指導を行いうる農業経営者を栃木県農業士として認定する規則を昭和四十七年度に制定しました。以来三十八名の農業士が認定になっていきました。岡本秀治君は、この三十八名中、最年少者で、しかも、地域農業の中核者として自から近代的農業を実践し、経営管理運営について高度の知識および技術を有し、社会性・協調性に富み、すぐれた識見を有する、農業者として、昭和四十九年度に

栃木県農業士に認定されました。岡本君の近代的農業の実践と高度の知識技術の内容について、以下紹介することにいたします。

家族は八人でうち農業従事者は本人、妻・父の三人である。三十八年水田農作を中心とした酪農専業経営に取り組み、転作田を利用して飼料作物面積を拡大、

圃場配管による糞尿を圃場に還元し牧草の増収をはかっているとともに、牛ふん乾燥ピニールハウスを建設して公害防止とふん尿処理を同時に解決している。

特に経営の合理化を図るため創意工夫した点は、(1)技術では乳量増加のための牛群改良であり系統的、能力的、体型的に最もすぐれたプリンスハンク、ヤンコーバの自家育成 (2)飼料自給率の向上 (3)農機具の共同購入・共同利用を積極的に進めている。(4)生活改善では、ヘルパ―利用組合に参加し、月一回の定休日を

## 鯉測学園の近況

久しく鯉測学園の様子を知らせておりませんので近況をお知らせします。

### 一、諸施設

既に会報で御報告の通り、経営改善計画が発表され、農林省を中心とした助成により次表の通り諸施設の充実ははかられてきました。

#### 諸施設新築一覧表

名称	完成年次	面積
男子寮	44、12、15	七三五、四八㎡
男子寮	49、3、4	七三五、二九㎡
女子寮	50、3、12	三六四、一二㎡
生物実験室	47、2、23	三八二、四二㎡
生物実験室	48、2、23	八三二、四二㎡
園芸実習室	48、2、23	一五三、四五㎡
畜産実習室	48、2、23	一五三、四五㎡
調理実習室	49、3、4	一七六、四〇㎡
鉄骨ハウス	47、12、30	二四三〇、〇㎡
出荷調整室	48、12、12	二五三〇、〇㎡
出荷調整室	50、3、14	一八一、七五㎡

設けて、家族共々楽しみ、さらに土の会婦人部活動の強化につとめている。又農村の組織活動のリーダーとして活躍している。その功績の主なるものについてあげれば、国際酪農青年会議発表準備優勝、県草地改良共進会一位で農林大臣賞受賞等、まことにあっぱれである。

名称	完成年次	面積
乳牛雄牛	47、3、4	二三二、〇〇㎡
肥育舎	49、11、18	シンプレックス
サイロ		VFB 20/41

昭和五十年度も園芸農場の農機具格納庫・水道除鉄装置・変電所の建設や設置が決定しており、更に五十一年は学生食堂及び浴場他数点の建設をすすめるべく補助申請がなされております。

学園発足当時あった建物で今もなお使用している建物は、事務室として利用している木造建築の建物と、それと同型の並列してある旧教室・米宿舎・内部改築した講堂・昭和二十五年頃建築された基礎実験室、それに学園長公舎および職員住宅とのみとなっています。

次々と新築されては来たものの、それら施設が平面的で点在しているために、何となく前と変わらないような気がいたし

ます。

### 二、職員

現在、学園で働く職員は四十名で、教育職二十一名、事務職七名、技術職十二名となっています。各課別の職員数は、総務課九名(三名が購売部一名が園芸農場と兼務)、教務課十名(うち三名科主任・一名嘱託教授)、学生生活課七名、園芸農場五名、酪農場七名の配分になっています。年齢別の構成は、二十才から二十九才までが二十％、三十才から三十九才までが七・五％、四十才から四十九才までが二十五％、五十才から五十九才までが三十％、六十才以上が十七・五％と高齢者が多くなっています。

勤続二十年以上の職員は十七名おり、全職員の四十二・五％が永年勤続者となっております。

### 三、在学生

五月三十一日現在の在学生数は次表の通りで、奈良・岡山・徳島・香川・愛媛の五県を除く全都道府県から入学しています。出身者の多い県は茨城の五十二名、長野・沖繩の

#### 学園学生数

学年	学生数
1年	132
2年	93
3年	91
計	316

長野・沖繩の二十一名、栃木十九名、福島十八名となっており、性別

### 四、農場

農場の現況を理解していただくためにこの程、昭和四十九年度鯉測学園の事業

成績が発表されたのでその中から、両農場の概況の部分を引用してみますと、

#### 園芸農場

昭和四十八年度施設整備で二、五〇〇平方メートルのビニールハウスが完成し、四十九年春から五、〇〇〇平方メートルの作付が揃うことになる。このため露地そ菜の集約度の高い果菜類を取りやめ、根菜や植木類を増反した。また二ヶ所に分かれていた水田を交換分合により若竹寮周辺にまとめた。

施設の整備では一八〇平方メートルの出荷調整室が完成し、マキ式重量選果機を設置した。

今年は気象に恵まれず多大の天災を被った。先ず降雹によって壊滅的な被害を受け、ビニールハウス二、五〇〇平方メートルの屋根全面に一平方メートル一〇〜五〇ケの小穴があき、ハウスとしての機能の大半を失った。他、露地作物にも大小の被害を受けた。また、春・秋ともに低温湿潤な天候であったため、里芋を除いて、生育・結実の不良や病害多発等で作柄は全般に不良であった。

#### 酪農場

乳牛部門では総頭数を七五頭前後として、老牛・繁殖不良牛などを積極的に淘汰して経営内容の改善に努めた。牛乳生産の面では飼料高を緩和するために、比較的安価な単味飼料の購入に努め、自家配合として用いるなど、飼料節約による減算を防いだ結果、二六万三千余kgの総産乳量をあげることが出来た。これは

農場開設以来の新記録である。生産された子牛のうち、雌子牛は後継牛として保留し、雄子牛は全て肉牛部門に素牛として転用した。

肉牛部門においては開設初年度でもあり、飼育頭数に比べて販売頭数が少なく飼料高による圧迫を一層きびしいものとした。肥育成績においては一応の成果が上がり、明年度以降の充実に期待している。

一方、飼料生産の面では、五月下旬の降雹による牧草やトウモロコシなどの被害に引続いて、多雨・長雨と低湿地が多いという圃場条件が重なり、播種・肥培管理などの遅延によって近年まれな不作となった。しかし待望していたスチールサイロの新設やこれに伴う附属機械類の

整備が農林省の援助により実現できたので明年度以降の自給飼料の合理的な利用により、一層の発展が期待される。

以上のように四十九年度は天候が不順のため成績があがらず、特に圃芸農場にとっては最悪の年でした。

今年度は、現在までのところ天候に恵まれ、生産施設の充実に相まって好成績が期待されます。

学園発足以来三十年、かつては農場実習が全教育時間数の二分の一、除々に減少して、学園農場が二農場になった頃から、一年生週二回、二・三年が週一回の実習になっております。圃芸農場では入学者数が圃芸コースに集中するため、実習の実施方法に苦慮され、実習時間に家庭電気大工工具を利用して木工実習が組

み入れられています。

経営的には生産施設の充実化とともに事業収入増への期待が益々高くなり、学園農場の目標、教育と経営の統一の実践の抽象論は別として、具体的な実習の在り方や実施方法を通して、学園のめざす実習教育の意義を明確にすることをせまられていられると思われまます。

#### 五、常磐高速道路および住宅工業団地造成計画

発表された計画によりまますと、学園酪農場の耕地三ヘクタール弱が高速道路敷地となります。道路は農場耕地の南端から入って斜に横切するため、耕地が縮少するばかりでなく、台形になったり三角形になったりし、機械作業に少なからず影響あると思われまます。また牛舎から道路

の中心点まで約一五〇米騒音も気になります。

学園としては建設反対の立場をとりつつも絶対反対というわけにもいかず、建設によって生ずる被害を重視し、やもえずの条件として、県や公団に対し、営農対策の明示を求めております。

現在、測量や杭打ちが進んでおりますが、明示されるまでは立入禁止で、学園耕地内には一本の杭も打たれず、なりゆきが注目されます。

首都圏整備法に基づいて、学園男子寮裏、つまり、大塚・五平部落を中心とした一五〇ヘクタールを対象に、住宅工業団地造成計画が立てられ、いま、地域住民の賛否に問われております。

## 支部だより

### 岩手・東京・神奈川・島根・宮崎

#### 岩手だより

高村光太郎先生の晩年の地、花巻市の奥座敷、台温泉で岩手県支部の同窓会が七月二七日・二八日に開催された。

支部同窓会は、例年三月頃の開催であったが、転勤・異動や農作業さらには参議院選挙等で、今年は真夏の開催となっ

た。

学園からは砂田先生と小野口職員に、多忙の中を急きょ出席していただき、三十余名の同窓生と共に、盛大な同窓会を開催出来ました。

支部総会では、佐藤隆（二期）会長より、情勢報告を兼ねて挨拶があり、来賓として砂田先生からは、学園の近況報告並に同窓会事業等を含めて祝辞をいただ

いた。さらに事務局からの事業報告、次年度計画等について、提案・協議があり、役員改選では佐藤隆会長、事務局に高橋由一（二期）が再選され終了した。

続いての懇親会では、二十代から四十代まで世代・職業を越えて学園今昔物語と近況の情報交換をし、酒気のメーター上昇とともに学園魂が会場の空気を包み、燃した。

スクラムを組んでの寮歌は、さすがヒロイ態度も一変しての斉唱……この感激をもう一度、そして再会を約して散会した。

—— 全国のみなさんへ ——  
大自然の「詩」が聞こえる、ふるさと

#### 東京支部

##### 一、東京支部の近況

当支部の会員の多方が一都三県（埼玉・千葉・神奈川）に勤務又は居住して居るため、支部活動も思うように行かないのが実情です。

支部総会も、一、数年間開いていませ

岩手においての際は、ぜひ同窓会支部にご一報をいただければ幸いです。

事務局  
岩手県共済農協連 高橋 由一  
（〇一九六―五二―二二―）  
内線 二八〇

んが、あらゆる機会をとらえて親睦は図っています。例えば会員の転勤とか、同窓生が地方から出張で東京した際とか、集まれる範囲で、それぞれの型で情報交換等を行っているところです。つい先頃も、和田同窓会長(三期)が、東北農政局企業流通課長に転勤される際も、二十数名の会員が集り、ご栄転を祝しなやかに一パイやったところです。

新しい会員や、在任の会員も、東京の同窓会はどうなっているかと心配されている方も多いと思いますが、役員としても責任の一たんを感じ、早い機会に総会を開き、会員の活躍の状況をみんなで語り合いたいと思っています。

## 二、会員の職場での活躍

### (1) 農林省本省の場合

会員は現在十二名います。農林経済局の統計調査部に三期の佐藤三郎さんが管理課の総括課長補佐として、統計行政や組合対策等で活躍されています。五期の磯田保さんも、北陸農政局に向向されていますが、現在経済統計課の課長補佐として、また十六期の藤井隆之さんも、作物統計課の面積係長としてそれぞれ活躍されています。かつては、統計調査部に澤田の同窓生が七八名いてにぎやかなものでしたが、現在は三名となっています。次は農業保険課でベテラン検査官として、二期の小田島功さんがおられます。また同期の北村康祐さんは、構造改善局管理課の専門官として活躍されており、最近ではゴルフも大部うまいとのこと

とです。四期の清水正昭さんは農林大臣官房調査課の総括課長補佐として、その役職はともかく、農業経済学者としての全国的に有名です。また同期大竹秀夫さんも秘書課の課長補佐として全農林対策に取り組んでおられます。五期では企業振興課の専門官平田藤夫さんが、農業技術会議の管理官補佐として共に九州帰りで頑張っています。本省には六八期の同窓生はいなくて、九期の白土忠男さんが農林経済局の金融課の調査係長として、農村金融の融資業務の調査のとりまとめをされています。同期の波方頼政さんが農蚕園芸局植物防疫課の係長として輸出の植物全般にわたり、目を光らせています。最後に私は、林野庁福利厚生課で農業とは多少縁遠い共済組合の仕事を担当しています。以上が農林省の本省に居る同窓生です。

### (2) 関東農政局の場合

ここもかつては五五六名の同窓がいたわけですが、北村さん・白土さんが本省に転勤され、現在四期の藤井文信さんが農産普及課の課長補佐として、また、五期の今田忠雄さんが統計情報部統計情報課の課長補佐の二名となっております。

### (3) 農業団体関係

全国農業協同組合中央会に農政第一部長として、二期の小口芳昭さんがおられます。氏は総理府所管の総理大臣の諮問機関である農政審議会の需給部会の専門委員もされ、広く活躍されています。またその部下の課長として四期の市川俊次

郎さんもおられ、イキの合ったところで中央会の幹部として活躍されています。この外、全農には十六期の石田・星さんまた八期の柴田さんも農協牛乳で、十六期の前原さんも中央酪農会議で活躍されており、外にも筆者の知らない方も重要なポストで活躍されているものと思います。東京都農業会議に四期の代田さん七期の山下さんがおられます。

### (4) 民間会社等

マンモス支部であるだけに、全会員の活躍の様子を記すことはできませんが、三期の井関さんは、トナミ運輸KKの重役として、四期の大沼さんは、文化服装学院の理事長として、日本のファッション界で、また農民教育協会の理事として活躍されています。農民に親しまれている家の光に四期の新田さん、五期の宮本さんもおられます。同窓生の多い協和種苗KKでは九期の中西・渡沢・斎藤・千田さん達が部長のポストで、大手種苗会社と競合しながら活躍されています。

また社長として、多くの社員をかかえ近時の厳しい社会情勢の中で活躍されている方や、それぞれの分野で活躍されている会員も多数おられるわけですが、筆者の情報の不足や、紙面の関係もあるため知る範囲で東京支部会員の活躍の様子を記しました。また情報を得て、記載出来なかつた会員の様子を機会があったら知らせたいと思っています。なお記載した中で、敬称等に相違する点がありましたらお許し下さい。(福丸)

東京支部連絡先  
千代田区霞が関一―二―一  
農林省内(電話五〇二―八三)  
農村経済局 藤井隆之(内線五六)  
林野庁福利厚生課 福丸博房  
(内線四二九〇)

## 神奈川支部の状況

①会員約五十名いますが最近支部総会はやっていません。しかし会員の様子は個々の交友がいろいろの面から会員の動向が伝はってきており、概略はわかっています。会員諸兄姉の寸は農業に関係ある職場で活躍し手は他の職場で活躍しています。年賀の交換や住居移転、職場変更等があれば交友関係の親疎に依りそれぞれ連絡しています。

- ②宮川 英二(二期)  
相模原市並木二―十二―一 会社重役 白木 孝司(二期)  
横浜市港北区綱島東四丁目五―二 都内中央市場で、果実情報センター 社長
- 鬼武 弘芳(三期)  
横浜市保土ヶ谷区狩場町一六四―二八グリーンヒルズ横浜A七〇二号 三黄倉庫K.K.社長代理 奥村 勇次(三期)  
横浜市緑区美しが丘 一―二〇―一五―一九 四〇五 糖価安定事業団 役員

岩岡 三郎(3期)

川崎市南加瀬一八〇

トランジスター工場経営

森田日出男(3期)

横浜市保土ヶ谷区峰岡町二一三三七

トーパー精機会社 課長

岡川 五月(3期)

横浜市善行二一三二二

梱包会社 事業所長

五明 達夫(3期)

横浜市鶴見区矢向町五十一三二一八

美杉木材K.K. 社長

川島 佳一(3期)

横浜市鶴見区矢向町五十一三二二一

清和木材工業K.K. 社長

五明・川島、両兄は協力して事業を

しており、成功されています。

薬丸 文明(8期)

藤沢市藤沢六一八六の九

工場を経営、また土地の名士として

活躍中。

小島 金吾(23期)

愛甲郡愛川町半原

農業改良普及員

和田 隆(23期)

海老名市杉久保二〇〇六

神奈川県立農大校 公舎二号

同校勤務

奥野 信一(20期)

平塚市四の宮二五九七

カンボジアに進出、活躍中。

小松製作所 技術研究部実験部に勤

務していたが約五年前海外雄飛した

とのことです。

梅原 進・陽子(10期)

川崎市幸区南加瀬二二四四

中華料理店を経営(夫婦)

旧(北条)陽子さんは二期、新潟県

北条定喜氏の妹さん。

その他諸兄姉のことも様子わかり次の

第御連絡します。

昭和五十年六月十五日

神奈川県支部長 山口 次夫

## 島根支部

鯉淵学園同窓生も年を経ることに増加

し、年一回の同窓会(筑波会)には新し

い面々と膝を混えて学園の夕べを語って

います。諸兄の活躍は多士多才というか

多方面に亘っています。

まずその筆頭は九期の竹下盛雄氏であ

りましょう。彼は四十六年県議選に初出

馬、大物を相手に健闘し、見ごと当選、

農林水産委員会に所属して島根県政に新

風をもたらした鯉淵健児の意気を発揮した

ところでありますが今回の統一選挙でな

おしくも次点、次期選を期して自己研鑽

と地域振興に意欲的に活躍中です。

三期の鎌田辰三氏、農業改良普及員と

して奥出雲山地開発事業に取組み、中国

山脈地帯における農業経営を専門に新し

い村づくりに全精力を傾注し、その成果

は広く期待されており、得難い人材とし

て君臨しています。

十期の福田幸三氏、安米高校広瀬分校

に勤務、温厚誠実な人柄は信望が厚く、

すず虫の飼育にかけては県下に右に出る

人もない程に達人、すず虫の音をききな

がら安米地区同窓会のリーダーとして農

政を論じ公私共に多忙な日々を過ごしてい

ます。

十一期中村泰昭氏、島根県共済連浜田

支所の中堅として活躍、浜田地区同窓会

のリーダーとして後輩のよき兄貴として

卒業生の神髄を発揮しています。

十二期三徳毅氏、安米市大塚郵便局に

勤務、農業とは畑違いであるが大いに活

躍、卓越した手腕は高く評価され末は

彼の勤務ぶりは他の範とされ大きく期待

されているところであります。

十三期伊藤都夫氏、島根食糧事務所川

本支所の中堅、卓越した理論と行動力は

所内の信望を一身に集め、労働組合運動

にはなくてはならない人材、竹下光賢と

は同地域、世界の農業を論じ、地域社会の

リーダーとして鯉淵魂の意気は盛んです。

同期石田一秀氏、県庁農業改良課にあ

って農産指導に意欲を燃し、緻密な計画

と行動力で島根県の新しい米作り運動

に全力投球、農業改良普及員出身である

だけに農村の実態把握と将来性について

は彼をおいて語る人なしで、若い普及員

からは兄貴分として親しまれています。

同期の三浦(寺戸)恭治氏、農協を退職

し、縫製工場の専務として活躍、二〇〇

人の従業員と共に不況下における企業打

開の策に懸命の努力を傾けています。

十四期岡本孝夫氏、専売公社浜田出張

所において煙草生産の合理化に取り組み

意気益々旺盛です。

同期小松原照夫氏、県農協中央会の電

算室勤務、単協の電算化に日夜努力中、

彼は持前の努力により新らしい分野を開

発している。彼の情熱と行動力は他人の

追従を許さないと云うところであり県農協運動

の先導として囑目されており、同窓会の

幹事長として会の中心人物であり県に筑

波会あり、鯉淵魂は彼により意気盛んで、

地方新聞の一頁に写真まで一将来の彼の

活躍は大いに期待されているところです。

十七期曾田(加藤)美保子、二十一期石

原(岩日)克美両名は生活改良普及員と

して日夜農家をかけめぐり、農村生活の

向上に懸命な努力、鯉淵学園卒業生の声

価を高めています。

十九期板垣洋司氏、掛合農協の中堅、

営農課に勤務、鯉淵農協論を行動で示し、

その理論と行動力は大きく期待されてお

り、組合においては職員の見望厚く労働

組合のリーダーとして職員地位の向上

と組合運営の充実に努力中。

二十期仙石晃氏、広瀬町立病院に勤務、

厚生行政・病院管理に敏腕を振い、看護

婦さんからの親望は絶大とか?

同期の川上芦求氏、中国四国農政局中

海干拓事務に勤務、中海下拓事業の完成

を期して鋭意努力中、その才能と人格に

ついては万人が認めているところです。

同期の菅野繁樹氏、普及員若手のナン

バー、各普及所長が引っぱりだこ。鯉

淵理論?最も山間地に希望、過疎地帯の

農業経営は如何にあるべきかを追求中、を彼の今後の活躍は大いに期待されているところだ。

同期安藤（永瀬）知子さん、四月一日付で生活改良普及員を退職、夫君と仲睦しく新生活、油絵の筆は益々さえをみせてしよう。

学園の卒業生はそれぞれの分野で活躍し、鯉淵魂がいかに発揮され、あの人は鯉淵学園を卒業しているぞうだ、他の大学卒とは何か異うところがある、一本しんが通っている。」と言われたときの快感は同じ釜の飯をたべた卒業生が味わう特権であるかも知れません。

かく言う小生四月一日の県の定期移動で掛合農業改良普及所長を拝命、目下普及法・蚕業法・森林法等の猛勉強中各位の活躍を期待しているところです。

## 我が支部の面々

### 宮崎支部

#### 檢垣士郎（十四期）

○自 營

諸塚村で十九期生の黒木弘和君が椎茸栽培にとりこんでいる。彼は鯉淵から宮崎まで自転車で帰ったという頑張り屋、椎茸に次ぐ、第二の特産品に育てるべく「水ワサビ」の栽培にもとりくむとか。西都原古墳で有名な西都市で、九期生の三井一夫氏、十五期生の本部勝利氏がそ

れぞれ、養蚕施設園芸にとりこんでいる。氏は「百姓」から「農業士」になるんだ」とか。

#### ○民間会社

宮崎日々新聞社の報道部長が、四期生の中村正實氏。氏は同窓会の支部長でもある。新聞の「この人と語る」の対談でユニークな存在となっている。

#### ○農協団体

農協団体には多宗々というところ。県北の延岡市農協の金融課長が十二（実）期生の田島昌二氏、都市化地帯の農協で信用事業中心。農協運動の中で苦悩も大きいのがやりがいもある。全国一の規模を誇る都城農協の教育広報課長が十五期生の満留藤男氏、この農協は今年二月、合併によって発足した農協で職員数九〇〇名である。難問の山積している中で、どうのりこえていくか？ 飼料の高騰で大きく悩んだのが日向農協に在る二一期生の長田峰盛君、畜産技術員である。

五期生の白坂正治氏、阪衛（旧姓牧彦）克巳氏。白坂氏は県農業会議の農政課長、阪衛氏は県農協中央会の農政官農部調査役。ともに宮崎県農業のリーダーと自他とも認められる存在である。農業の見直しをしようというとき両氏は何を考えるか？ 県経済連に十（実）期生の日高瑞進氏が在る。彼は温水参議院議員の秘書から会計課長補佐へ転任。県共済連に十一（選）期生の熊本柘氏、十三期生の奥祐善彦氏が在る。熊本氏は普及部長で、組合員の「しあわせの輪を広げよう」と大奮闘、

奥祐氏は企画管理課長補佐。

#### ○県 庁

八期生の阪衛睦子女子、長い生活改良普及員、専門技術員から今は、県民の生活を守らんと消費生活センターで大活躍。いい。アネージョ。である。あとは引き受けたと生活改良普及専技で活躍しているのが十期生の（敬称略）畑野富子（旧姓鈴木）十五期の浅岡和喜枝（甲斐）十五期の湯浅紀久子、二三期の甲斐タマ子、二四期の落丸厚子（山崎）香岐安子（長友）の面々。

## 卒業後二十年の集い

### 九期生会

昨年十一月三日、卒業後二十年を記念して九期生会が懐しの内原温泉、湯泉荘において開催された。

参集された同期生約四十名、きれいどころ評して、「皆さん同級生ですか？」

上は兵役に服したもののから、ストレート入学組まで多士済々、三年浪人がわが同期の平均であつてみれば、至極当然ではあつても、青年とも思える者から本来の毛髪面積が二分一に変化した者まで、余りにも違い過ぎる面々であつた。

「内原温泉、学生当時、長期にわたって風呂が故障し、やむなく四キロの道を歩いて通った学園風呂、銭湯」

同期生会は何にも増してよい会だ、楽

変わったところで、六期生の水元照男氏、氏は、今、県病院の事務局長に在る。

稲作転換はこうすべきものと県下に模範を示したのが十五期の吉田けんじ氏、現在、串間市役所に在る。

最後に、小生、宮崎市農協に約十二年、故あつて退職し、今、県農協中央会指導部の主事である。農協とは、単協である」とつくづく考えるこの頃。又、農協とは「組合員の可処分所得の収奪機関か？」と真剣に悩む。

しくうきくする会だ、が参加者の実感であつたように思われる。

翌日、全員で学園を訪問、農場から学生寮まで総点検を実施した。卒業記念に建てた門柱、刻んだ九期の印も消えていり、誰いうとなく何とかしようの声があがら、学園在住の高橋が引受けることになった。会議室において、発展、再会の乾杯、潮が引くように去つていった。

後日、黒みかげ石に

「第九回卒業記念  
昭和二十九年三月一日  
九期生一同」

の文字を刻み、左側門柱の裏面に頼つきの加工をして入れた。

工事の諸経費は散会の際の資金カンパ等をこれにあてた。

学園在住 高橋 隆三

# 武藤副学園長逝去さる

七月十七日より入院加療中であつた、武藤副学園長は、急に容態が悪化し、七月三十日午前九時二分、肝臓がんのため水戸市、水府病院において逝去された。

告別式は、東茨城郡美野里町羽刈の自宅において、農林省をはじめ、茨城県・農民教育協会等、多数の農業関係者の参列を得てしめやかにとりおこなわれた。

同窓会関係では、本部並びに茨城、東京・栃木各支部の代表者をはじめ多数が参列され先生の冥福を祈った。

先生は副学園長就任以来二年余、精力的に学園の教育と経営問題に取り組み、着実にその成果を築きつつあつた。とくに豊富なアイデアは、自らもつて語らず、会議の態度、自信をもつて語り、学園職員に刺激を与え、また自覚を求めていた。

丁度、夏期農場実習最終日に他界の報に接したが、先生が元気だったら、

職員らの先頭に立って、真夏の太陽の下、労働の尊さを、身をもって学生に教えたものと思ふ。

春の頃は元気があつた。私達の目に、先生は体に異常が、と写るようになつたのは六月の中頃から、講義を終つて汗ビッシュヨリ、ソファアに体を横たえ、扇風機、すぐスイッチを切る、体がひびいて、と苦しうに口にしたと先生を導く女職員、学生に聴くと椅子に腰をかけて講義をしたともいふ。それ程までして教育の責任を果された。

今日は自宅で仕事をやるから、の連絡後も緊急の会議があると出席されて、御指導なされたとか、今思うと、当時の先生の肉体的苦痛はいかばかりか、それにも増して、その努力・精神力に少し敬服せずにはいられない。

学園は大きな柱を失つた。今後が非常に心配になるが、しかし、先生の教訓は必ず生きて、学園を支える力になるに違いない。

## 学園人事移動

### 採用

- 小谷 浩治 四八、一一、一 館農場勤務(二十七期)
- 山本 幸信 五〇、四、一 館農場勤務(二十七期)
- 小沼 和重 五〇、四、一 館農場勤務(二十九期)
- 横井 芳江 五〇、四、一 館農場勤務
- 吉賀三弥子 五〇、六、一 学生生活課勤務

### 退職

- 石橋 幸雄 四九、七、三一
- 大野 順子 五〇、五、一

## 事務局だより

### 一、名簿の発行

四十六年九月、発行以来今日まで四年間、発行なしで会員各位に迷惑をかけています。

十一月の大会には参加者に新名簿を手渡すことが出来るよう準備を進めております。

出来得るなら電話番号も記載したいと考えますので事務局に御連絡下さい。

静岡支部では支部会員名簿を作成して事務局にも送っていただきました。各支

部とも静岡に順じていただければと思います。

諸物価高騰、名簿の配布は実費負担となります。配布額、現在のところ未定。

### 二、観測学報

近く発行されます。今年度中に、の連絡を再々致し乍ら延びく、今度こそその目を見ようです。既に印刷に、七月中に発行されるようです。

### 三、会費の納入について

会費の一括納入支部は着実に増加し、北から順に協力いただいた支部をあげますと、岩手・宮城・栃木・福井・長野・静岡・愛媛・佐賀の八支部となっております。

今後も前にも増して御協力をお願い致します。

### 事務局の体面について

前西村事務局長より引継いで早や四年になろうとしております。事務局員は若い卒業生四名を加えると全員で十三名、学園全職員(三十二・五名)を占めていますが総力を結集するまでにいたっておりません。これも現事務局長の怠慢にありと深く反省します。

次期は若い事務局員を先頭にして頑張つて行く必要があるように思っています。

